

運転手 重点検診絞り込み

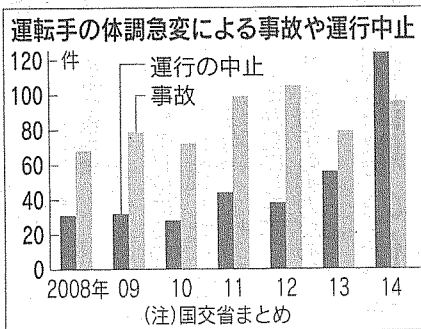
無呼吸症候群や脳・心疾患

バスやトラック、タクシーの運転手の体調急変による事故を防ぐため、国土交通省は事故データを分析し、同省が推奨する睡眠時無呼吸症候群(SAS)や脳・心疾患の検査、人間ドックでの重点検査項目を絞り込む。事故を減らす効果の高い検査を具体的に示し、運転手の検診にかかる運送事業者の費用を抑える狙いだ。

SASや脳・心疾患、送事業者の間で検査が進人間ドックなどの精密なまない要因となっており、検査を受けると費用は1人最大数十万円に上ると。国交省によると、運転手の手体調急変による事故



北陸自動車道の夜行バス事故の原因は運転手の体調急変だった可能性がある(2014年3月)



事業者の費用減 事故防止へ国交省

や運行中断は2014年に過去最多の220件に上り、乗客や歩行者らの重軽傷者は74人出た。同3月には北陸自動車道のサービスエリアで夜行バスが停車中のトラックに衝突し、バス運転手と乗客の計2人が死亡。バス運転手は体調急変などで意識を失っていた可能性が指摘されている。

北陸自動車道の事故を受け、国交省は昨年4月に運送事業者向けの運転手の健康管理マニュアルを改訂。従来から推奨してきたSASの検査に加え、脳・心疾患の検査と人間ドック受診の推奨も追加し通知した。

しかし、精密な検査を受けると費用は多額になる。全国で7万社を超える運送事業者の大半は従業員300人以下の中小企業。全国にバス、タクシー、トラックの運転手は1000万人以上いるが、1回5千円程度のSASの簡易検査も「実施

しているのは運転手の1割程度」(国交省)とみられ、費用負担の重さが課題となっている。国交省は9月、運送業界団体、脳や心臓、循環器の専門医師らが参加する協議会を立ち上げた。過去の事故データを分析したり、事業者にアンケート調査をしたりして、優先度の高い検査項目を絞り込む方針だ。

13年に発生した体調急変による事故の死亡者の7割が、脳や心臓の疾患が原因だった。バスやトラック、タクシーの運転手の平均年齢は10年から14年までに1〜2歳上昇し、高齢化の影響も指摘されている。

国交省の担当者は「事故につながる可能性のある疾患の予兆をつかむため、事業者が運転手の検査をするよう促したい」としている。